


# たが

こんにちは   
議会です!!



「みて みて、こんなに大きいよ!」にっこり 笑顔

- ・ 決算委員会報告 ..... 2
- ・ 9月定例議会 ..... 4
- ・ 各常任委員会審議報告 ..... 6
- ・ 一般質問 10 議員が問う ..... 8
- ・ たがとともに ..... 14

## 第127号

平成 22 年 11 月 1 日 発行  
発行 多 賀 町 議 会  
編 集 広 報 発 行 特 別 委 員 会

滋賀県犬上郡多賀町大字多賀324  
〒522-0341 ☎ 0749 (48) 8126  
FAX 0749 (48) 0157  
有 線 2 - 2011

ホームページ <http://www.tagatown.jp>  
E-mail [gikai@town.taga.lg.jp](mailto:gikai@town.taga.lg.jp)

# 教育熱心な町をめざして 中学校耐震工事完成

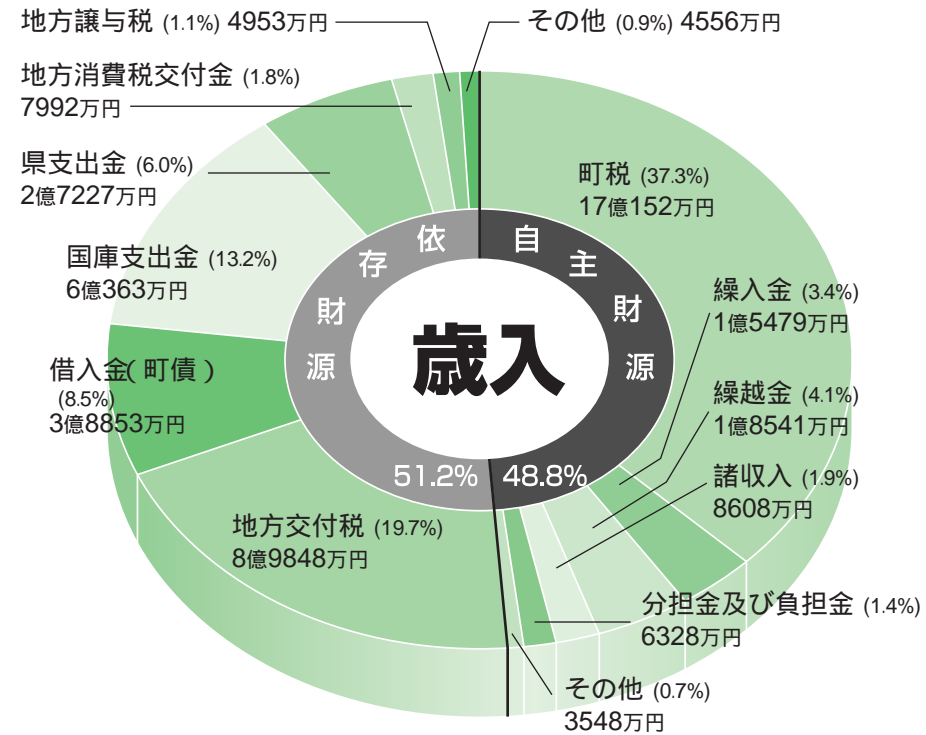
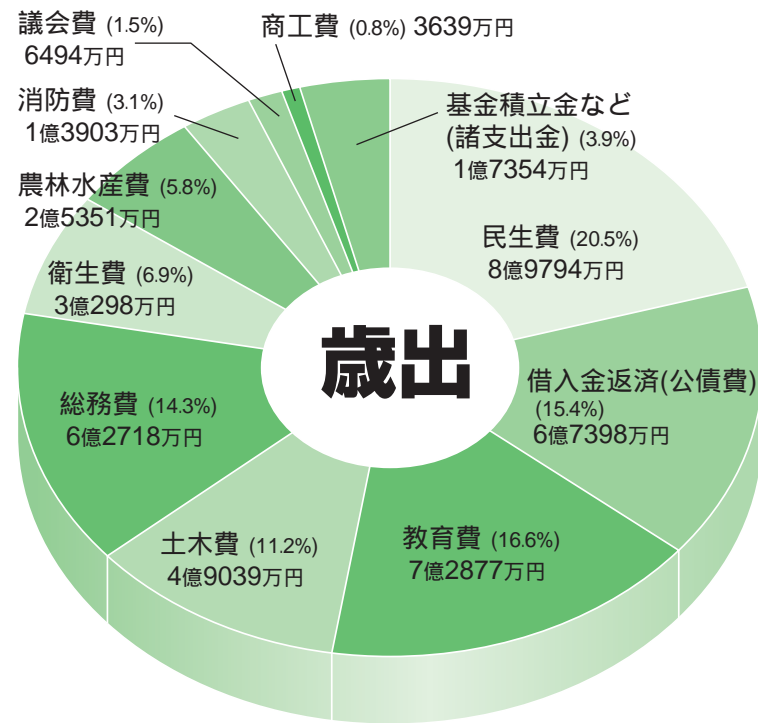
## 町税 17億円 昨年比 1億5,000万円減収

21年度  
決算を  
認定

使ったお金 43億8,900万円

入ったお金 45億6,400万円

特別会計	歳出額
国民健康保険事業	7億5542万円
老人保健事業	5万円
介護保険事業	6億2998万円
後期高齢者医療事業	7723万円
育英事業	393万円
びわこ東部中核工業団地公共緑地維持管理事業	302万円
住宅団地造成事業	322万円
多賀財産区管理会	6万円
大滝財産区管理会	51万円
霊仙財産区管理会	5万円
下水道事業	5億2490万円
農業集落排水事業	3777万円
水道事業	5億7879万円
総合計	26億1493万円



9月10日・13日の両日、決算特別委員  
会に付託された平成21年度一般会計決算  
の審議を行い、全員賛成で原案のとおり  
認定すべきものとした。

基金(積立金) 21年度末現在高	
一般会計(合計)	10億8634万円
減債基金	1億1379万円
財政調政基金	8億1549万円
その他5基金	1億5706万円
特別会計(6会計)	6億14万円
総合計	16億8648万円
町債(借入金) 21年度末現在高	
一般会計(合計)	41億4836万円
一般単独事業債	11億7152万円
臨時財政対策債	15億3453万円
その他11町債	14億4231万円
特別会計(合計)	53億1001万円
下水道事業債	39億1823万円
その他3事業債	13億9178万円
総合計	94億5837万円

**問** 「ふれあいの郷」の風  
呂の運営状況は。  
**答** 町内7720人、町  
外4480人、燃料費他  
支出は900万円余りで  
収入は350万円である。

**問** 「もんぜん亭」の運  
営状況は。  
**答** 野菜の販売、そば道  
場など順調に運営され  
ている。

**問** 保健事業で多額の不  
用額がでているが内容は。  
**答** 妊婦健診などの請求  
が遅れているため確定で  
きなかった。  
また、インフルエンザ  
の予防接種の接種者が少  
なかったことによる。

**問** 毎年修繕費が予算化  
されているが修繕は町内  
業者に発注しているか。  
**答** 今日まで修繕などは  
当初の建設業者であるが  
今後検討する。



未来の町を担う 子どもたち

**問** ふるさと納税者に対  
する対応は。  
**答** 毎月の「広報たが」  
を送付している。

**問** 定額給付金はすべて  
に交付されたか。  
**答** 交付率は99.7%で、  
未交付者は22人である。

**問** 観光協会への補助金  
の交付対象は。  
**答** 初詣、総おどり、広  
告宣伝費、ささゆりむす  
め、人件費などに対して  
500万円である。

**問** 有線放送の使用料は  
役場全体でいくら支払っ  
ているのか。  
**答** 112回線で約41  
0万円である。

**問** 第5次総合計画策定  
のコンサルの選定は。  
**答** 8社で入札した。  
パスコ滋賀支店が落札  
しました。

### 決算特別委員会報告

# 9月定例議会

## 否決

# 大滝幼稚園・たきのみや保育園 幼保一体化

反対：富永・小林・藤本・土田(雅)  
木村・山口・北川  
賛成：大橋・川添・本多・土田(-)

9月定例議会は、9月8日から24日まで17日間で開催した。  
町長提案の人事、条例、補正予算、平成21年度各会計決算認定など29件を審議し、うち条例2件を否決、その他の議案は同意、可決、認定した。  
議員提案の請願2件のうち、1件は採択し、意見書を可決。1件を不採択とした。

### 反対討論

富永議員  
幼児教育を考えれば、一体化の流れを否定するものではない。是非か、意見の集約をしたが、さまざまな立場の方々に理解を得るまでにはほど遠く、結論ありきのようない町の進め方に懸念、合意形成に至っていない。

山口議員  
大滝地域から公共施設がなくなり少子化に拍車がかかる。  
少子化対策・定住化対策は本町の最優先課題だ。「園児の声が聞こえる地域」にすることが、大滝地域の活性化につながる。

### 賛成討論

川添議員  
自分たちの子どもが将来を考え、少人数の中で育てるより多くの子どもたちの中で育てたいと、平日にもかかわらず大滝幼稚園、たきのみや保育園の役員たちが議会に対して要望された。  
本町の将来を担ってくれる子どもたちの幼児教育、幼児保育の重要性を考慮し判断されるべきだ。

土田(-)議員  
一年間の教育委員会の努力を認めたい。  
また、保護者会の代表者意見も尊重し、早く一体化すべきである。

## 同意

教育委員会委員  
(任期は4年)  
藤澤教悟氏 64歳 樋田 全員 賛成

## 22年度補正

一般会計  
支出の主なもの  
町道2路線改修ほか  
県道改良設計負担金 2850万円  
庁舎前駐車場整備ほか 310万円  
税務システム委託料 546万円  
「ふれあいの郷」修繕費 400万円  
鹿肉処理施設新設ほか 400万円  
観光パンフレット作成 200万円  
中学校敷地内の整備 160万円  
大滝山林組合補助金 290万円  
農業者団体補助金 240万円

## 条例

国民健康保険特別会計 375万円  
介護保険特別会計 526万円  
レンタサイクル事業 全員 賛成 可決  
レンタサイクル使用料 3、5時間以内  
電動車 600円  
普通車 300円  
保育センター条例 反対7賛成4 否決  
大滝幼稚園の住所移転 川相から富之尾へ 反対7賛成4 否決  
町税の改正  
給与所得者・公的年金受給者は扶養親族の申告が必要になる。  
株式譲渡所得等の税率変更  
たばこ税の税率変更  
福祉医療費助成の対象が身体障がい者3級まで拡大される。

## その他

「生産者米価の暴落に歯止めをかけるため、緊急に40万トン規模の政府買い入れを求める意見書」提出について。  
滋賀県農民組合連合会 北村富生  
紹介議員 山口久男  
全員賛成 採択

## 請願

「沖縄への新基地建設と全国への米海兵隊訓練移転を進める『日米合意』の撤回を求める意見書」提出について。  
滋賀県平和委員会 吉村克之  
紹介議員 山口久男  
反対10賛成1 不採択

## 意見書要旨

米の取引価格は昨年度より1000円以上が下落し、稲作農家の存続も危ぶまれ、国民の主食の安定供給が困難になる。過剰米対策の協議を進め、緊急に40万トン規模の買い上げを求める。

## 監査委員報告

代表監査委員 鈴木 善通  
8月19、20、24日決算等の審査を実施した。結果、計数に誤りは認められず、いずれも正確で、預け入れ金融機関の預貯金高とも符合し、適正であり、基金運用も妥当なものと認められた。  
財政健全化比率、公営企業資金不足比率では、いずれも適正に算定されていると認められた。



身近な問題、町長に「質問!」子ども議員12人

## 全国広報研修会参加

8月25・26日の2日間、東京の砂防会館で、第72回議会広報研修会が開催され、広報委員の4人が参加した。  
1日目は講師による文書の作成の仕方、インターネットの活用など今後の議会広報誌について大いに参考になった。  
2日目は全国各町村で発行されている議会広報誌を使って、具体的に技術面など指摘を受けるクリニックがあり、当議会発行の第125号もクリニックを受けた。

# 12人が町政を問う

## 子ども議会開催

12人全員が登壇し、自分たちの学校生活や道路、公園に対する要望。環境、少子高齢化、獣害対策や税金の使途まで幅広い問題。米の消費や図書館に対する提案もあった。  
町長をはじめ担当課長が一つひとつ丁寧に答弁を行った。  
未来の多賀を担う子どもたちの意見や要望に耳を傾け、今後の更なる発展の機会にと考える。  
今回の貴重な体験で、議会や行政の役割に理解を深めていただくことを期待する。

8月18日、子ども議会が開催された。小学生6人、中学生6人の議員から町政に対して活発な意見、提案があった。

「町民に分かりやすく、構成の仕方も質の高い広報誌である」との評価であった。  
今後も議会内容的確にお伝えできるよう編集に努めていく。



低温倉庫に保管の米

# 総務

## 子ども手当支給で税の扶養控除廃止

9月14日、付託を受けた平成22年度一般会計補正予算1件、条例3件、平成21年度特別会計決算4件を審議し、条例2件を否決（反対3賛成2）し、その他は可決、認定すべきものとした。  
 請願1件は、不採択とすべきものとした。

- 問** 幼保一体化は、やむを得ないが、教育委員会の進め方に問題があるため今一度協議してほしい。
- 答** 検討委員会で協議を重ね、教育委員会、保護者会、集落関係者には了解を得ている。
- 問** どのような扶養控除がなくなるのか。また、配偶者控除も廃止されるのか。
- 答** 16歳未満の年少扶養親族に係る扶養控除が廃止。
- 問** 16歳以上19歳未満の特定扶養親族に係る扶養控除の上乗せ部分が廃止。配偶者控除の廃止は未定。
- 問** 町税の申告はどのようになるのか。
- 答** 様式などについてはまだ決まっていない。
- 問** 住民税において、申告しない人はどうなるのか。
- 答** 申告漏れのないよう対処したい。
- 問** 検討委員会のメンバーは。
- 答** 保護者会長、民生児童委員、保育園長、区長など、地域的に構成されている。
- 問** 教育委員会の進め方に説明不足との批判があるが。
- 答** 納得していただけるよう誠心誠意努めてきた。



たきのみや保育園

# 産業建設

## 観光スポット散策にレンタサイクル導入

電動自転車8台・普通自転車12台



環境にやさしく 健康的 レンタサイクル

9月16日、付託を受けた平成22年度一般会計補正予算1件、条例2件、平成21年度特別会計決算4件を審議し、補正予算1件を否決（反対3賛成2）し、その他は可決、認定すべきものとした。  
 請願1件は、採択すべきものとした。

- 問** レンタサイクルの保管場所と貸し出し返却場所は。
- 答** 「観光案内所」と「もんぜん亭」の2カ所である。
- 問** 経営体・育成事業の補助対象は。
- 答** 米の選別機・トラクター・畦半の除去整備などがある。
- 問** 鹿肉加工施設の設置場所は。
- 答** 高取山ふれあい公園内に建設する。
- 問** 久徳・中川原線の進捗状況は。
- 答** 補償交渉ができていくところから進める。
- 問** ダム関連の住宅用地の償還はどうするのか。
- 答** 来年3月には借り替えを考えている。
- 問** 利用時間と料金の設定は。
- 答** 3、5時間以内  
 電動自転車 600円  
 普通自転車 300円  
 3、5時間超えると  
 電動自転車 800円  
 普通自転車 600円
- 問** 辺地共聴施設の設置地区はどこか。
- 答** 上水谷・下水谷・桃原・屏風・甲頭倉の5集落である。

## 閉会中の調査

7月26日、福祉保健課所管の障がい者施策の説明を受け、重症心身障がい者通園施設「せいふう」の視察研修を行った。



「せいふう」で概要説明を受ける

- 本町の身体障害者手帳の保持者は524人で、そのうち重度の方は27人。障がい者のニーズに対応すべく、障がいの程度などの状況を踏まえ、きめ細かなサービスに努める必要がある。
- 「せいふう」では、在宅で生活される重症心身障がい者への支援を行う。通園施設として利用者のニーズに応じた配慮、穏やかに通園できる環境整備を進められていた。
- 問** 各施設への入所の手順は。
- 答** 障害認定が前提で1市4町の入所判定が必要。
- 問** 青い鳥会「彦根学園」の施設に何人入所しているか。
- 答** 「彦根学園」には2人が入所され、「せいふう」にはおられない。
- 問** 障害者施設の課題は。
- 答** 施設数が限られているので満足してもらえない状況ではない。

## 閉会中の調査

7月30日、公営企業課所管の上水道施設の概要、整備計画、企業債の現状説明を受け、川相水源地、浄水場、仏ヶ後新浄水場予定地などの視察研修を行った。



上水道新ろ過施設(川相)

- 今後の水道料金についての考え方は。
- 答** 施設の老朽化による新設などで、料金の見直しが必要と思う。審議会を設置して検討していく。
- 問** 取水量の低下や濁水対策はどうか。
- 答** 新浄水場の建設と濁水対策として、膜ろ過装置を設置する。
- 問** 膜ろ過装置の費用は。
- 答** 国庫補助の対象になる。
- 問** 彦根市からの水の受け入れは可能か。
- 答** 現在、接続できる管路は3カ所ある。
- 問** 中川原の水源地の増設はできないか。
- 答** 水量、水質に問題がある。

町政の  
ここが  
ききたい

# 一般質問



木村 晴彦 議員

## 食品リサイクル処理施設 建設許可は しばらく時間を

—町長—

町長 地元が反対されているものを町として許可することはできない。区民の思いを深く重く受けとめ、設置場所の再考、別途利用なども考慮していただけるよう話し合いを続けているところである。しばらく時間をいただきたい。

木村議員

昨年6月、(株)成功産業から食品資源リサイクル処理施設建設許可申請が出された。

10月に多賀区から議会に対して不許可にすべきと請願書が提出され、議会も請願書の趣旨を尊重し全員賛成で採択した。行政は速やかに不許可の決定通知を出すべきと思うが現状はどうか。

町債の期限が迫っているが

## 企業誘致も含め県と協議中

木村議員

ダム移転地の2億9000万円の償還期日が迫っている。県の責任を明らかにするとともに、返済方法、土地の利活用についてどう協議されているのか。

町長

起債の原因は県にある。償還方法・土地の利活用について県と協議中である。現在は工業用地に指定されており、企業誘致も含め協議中である。

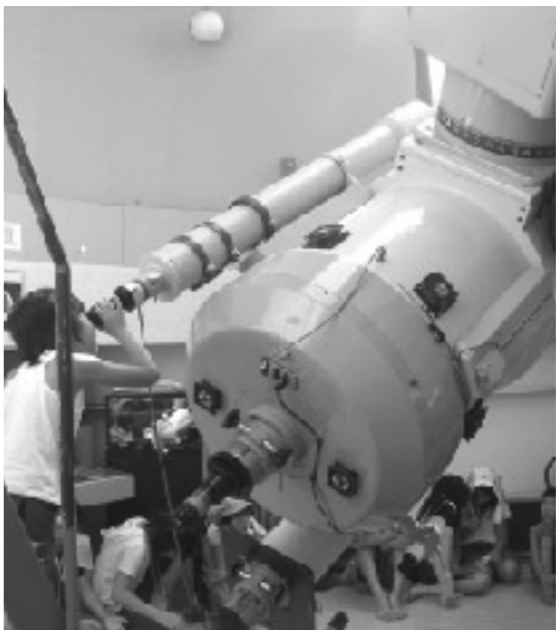
## 芹川の河川整備は 伐採除去を県に要望

土田(一)議員

河川内の雑草、竹林が多く繁茂している。

土田 一善 議員

景観も悪く降水時の流下能力にも支障がある。1日も早く伐採 除去を町長 本年度は新幹線から中原名神高速道路下まで、予算確保ができれば久徳まで計画されている。



どんな星が見えるかな

## 星空の街・あおぞらの街 全国大会のイベントは 多賀町らしい事業で

土田(一)議員

平成23年10月1日、2日に予定されているが、町の財政状況で実施できるのか。

町長

イベント事業は町の財政と相談しながら、本町らしさをだした計画で進めたい。アストロパーク天究館の指導で進めていく。



富永 勉 議員

## 町の獣害対策は 予算確保に全力

—町長—

富永議員 多賀町は、3年間の獣害対策措置法に基づいて取り組みが着々と進められ、町民の方々は大きな喜びと大きな期待をしていた。政権が変わり事業仕分けにより交付金が2・6%のわずかに300万円しか交付されないことがわかったが、この時点で早急な対応はできなかつたのか。

町長

滋賀県はもとより、国に対し、追加予算の配分来年度以降の事業の延長、新規事業の創設などあらゆる要望活動をしている。今年度の鳥獣害被害防止総合対策事業、県の里山リニューアル事業など緩衝帯と侵入防止柵の設置事業を実施計画中である。事業計画地域において、具体的な柵の設置箇所、設置区間などについての検討、大滝地域の協議会関係者により、協議を重ねていただく必要がある。その結果を踏まえて、今後の取り組みと対策を考え、できるだけ早く着手できるように努力していく。



シカの皮はぎ被害

## 芹谷水没地区の 今後の対策は 1日も早い再建を

小林 元嗣 議員

—町長—



大滝幼稚園

小林議員

町長は水没委員会の会議に出席したり、芹谷地区の福祉サロンに出向き区民の皆さんの意見を聞いていると答弁されている。

町長

昨年12月以降、水谷地域の皆さんと話し合い、協議を重ね、皆さんの声を芹谷振興事務所や県の方へ伝えている。高齢化した集落の疲弊した生活が1日も早く再建されるよう、全力を尽くしていく。

## 幼保一体化に 疑問 地域・保護者の 願い

小林議員

大滝幼稚園とたきのみや保育園の一体化は、平成23年4月からをめざし1年をかけた関係集落に理解を求めることであった。しかし、4集落には説明されたが、残りの集落は説明されず、理解を得られたでは責任は果たせていない。

町長

この進め方には疑問を感じている。人口の減少が続き、今後数年間はこの現象が続くものと推測される。幼稚園、保育園を一体化し、存続することが、地域の皆さん、保護者の皆さんの強い思いであると確信している。



# 特別支援教育の実態は 保護者の支援に努める

―学校教育課長―



藤本 一夫 議員

藤本議員

特別支援学級の標準学級編成は、小中学校で1クラス6人、高校では8人と聞いている。

重度障がい児童生徒は1クラス3人である。

町内の小中学校の支援学級の在籍生徒数は14人である。

どのような外部的支援や指導をしているか。

また、学校以外での指導もあるべきで、保護者は自立や社会参加を支援するといった指導、教育情報開示を望んでいるのではないか。

学校教育課長

就園前の保護者には、保健センターが、就園後は教育委員会内の子ども家庭応援センターが担当し、子育て相談や未就園児親子教室をおこなっている。

就園後の発達支援としては『元気づきグループ』などを実施している。

各幼稚園、保育園にかけて行う巡回相談なども行い、センター職員が各園と緊密に連携・情報交換をしながら支援に努めている。



拡幅工事予定の水谷口

## 県の支援策に疑問 早期に合意をめざす

―町長―

藤本議員

知事が8月の記者会見で水没地区住民に福祉支援策を提案してきた。

肝心の生活再建、補償問題が何一つ解決に至っていない段階での支援策に疑問を感じる。

町としても家屋補償をはじめとした支援、生活再建に対する合意ができて、社会基盤整備、地域活性化策、福祉対策が前進するものと思っている。その意味から早期に合意できるよう、全力を尽くす。

町長

## 農産物被害対策は 協議会から働きかけを

―農林商工課長―



大橋 富造 議員

大橋議員

昨年、芹川ダム堰堤から上流域の八重練にかけて、兩岸の河川敷の竹林が伐採、整備された。当初予算枠を超えた段階で事業が中断されている。

22年度獣害対策予算も大幅に減額され実施は困難を極めている。

早期に未着手区域の竹林伐採はできないか。

また、恒久電気柵の維持管理は、集落内の自衛育成事業としての助成を継続できないか。

農林商工課長

竹などの伐採除去工事は獣害対策としての取り組みにも限界がある。

獣害対策協議会から河川管理者である湖東土木事務所に要望していく。恒久柵の耐用年数は、日ごろの管理状態で大きく左右されるため、維持管理に対する助成は慎重に検討したい。

## 図書館の本を 各学校に宅配を 移動図書館で対応

―教育長―

大橋議員

子どもたちのリクエストに応じて図書館の本を各学校に宅配することができないか。

教育長

―教育長―

限られた予算の中では宅配は難しい。

各学校、クラス単位の場合は、図書館開館当初から移動図書館ですでに実施している。

生徒が読書熱を持ったとき、身近に本があり、選んだり、調べたりする気持ちは大切かと思う。学校図書館としての機能を充実確保しなければならぬと考える。



多賀小学校図書館での子ども読書風景

## 若者の定住化対策は 空き家情報も視野に

―町長―



北川 久二 議員

北川議員

若者の定住化について平成21年3月議会で町長答弁の空き家情報提供の取り組み状況はどうか。

また、柏葉団地に隣接した土地を民間事業者による宅地分譲工事約100区画の整備がされている。

住宅建設費の地元産材利用への優遇制度は、人口減少防止にもつながり、具体的に検討する時期と考えるが対応は。

町長

若者が定住する町づくりの施策として、空き家利活用がある。

昨年1月に各区長に空き家の情報をアンケート方式で募り、回答を得た集落をモデルに、行政と地区で協力して積極的に推し進めたい。

また、建築に地元産の木材を使用する場合の優遇制度の創設については検討している。

## 竣工検査の充実を 技術系職員の再教育

―町長―

北川議員

町税や国、県の補助金で各種の公共事業を発注し、工事完成後に竣工検査が実施されている。

いつれの物件も町の財産として残るものである。竣工検査は専門的な知識の有する建築、設備工事など多様である。

職員の養成や組織の再編など竣工検査の体制の充実を図る必要があると思うが対策は。

町長

本町では、すべての竣工検査は町職員の技術系職員で実施している。

技術系職員の建築、設備分野の専門性を高めるため、定住自立圏共生ビジョンにもとづく人材育成事業として、技術系職員の検査技術の研鑽を図っている。

来年度実施の機構改革で町発注工事全般について技術系職員を配置する。



(仮称)グリーンヒル多賀の造成工事



本多重男 議員

## 避難対策は万全か 適時に適正な方法で

—総務課長—

本多重男

近年、地球温暖化や気候変動による大規模な自然災害が、世界各地でおきている。

本町においても例外ではない。災害発生時には、被害が予想される箇所を数多く抱えている。行政、住民、地域が一体となって防災、減災対策に取り組む必要がある。災害時の対策は以下の項目で大丈夫か。避難指示や勧告の基準は明確か。避難経路、場所は周知されているか。職員の出勤体制の備えはできているか。

総務課長

最近、全国では小地域で短時間に集中豪雨が発生し、予期せぬ災害がおきている。

本町も7月に大君ヶ畑地先で国道に土砂が流出し通行できない事態がおき、本町の地域防災計画に基づき、職員の動員体制を整え迅速な応急復旧に努めた。すべて、地域防災計画の中で明記され、発令の権限者も定められている。一時避難施設までの経路は地元においている。昨年からの実施している防災訓練を通じて町民に周知を図る。



佐目地区の防災訓練



山口久男 議員

## 幼保一本化の合意は 理解は得られた

—教育次長—

山口議員

「今後の大滝幼稚園は、どうなるのか?」「受け入れなどの体制は大丈夫か。」「通園距離が遠くなり送迎が心配。」「幼稚園がなくなれば、過疎化につながるのではないか。」などの不安の声もでてくる。

大滝幼稚園の見直しは、地域問題と同時に、多賀町全体の幼児教育や保育制度にかかる重要な問題である。保護者への十分な説明と地域住民との合意が前提である。この間、保護者と関係住民との懇談会や説明会を開催してきたとされているが、合意は得られたと思うか。また意見や要望はどのような内容であったのか。

教育次長

今回の見直し案は、幼児期における集団生活の中で連帯や協働性は、子どもたちの成長期に最も重要な時期と判断し、幼保一体化を進めてきた。保護者、関係地域住民の理解は検討委員会の中で協議し、得られたものと考えている。

大滝幼稚園の園舎は残して管理していく。延長保育は7時30分から19時まで予定している。送迎は、現行のとおり保護者の責任においてお願いする。保育園は所得に応じ、幼稚園は6500円である。

大滝幼稚園の存続は、PTAの願いであり検討委員会の協議の中でも、保育センターとし、長時部、短時部として一体化していくことで確認済みである。

## 鳥獣害対策の財源確保は 国・県へ強く要望

—町長—

山口議員

今年度、鳥獣害防止対策補助金は1億9900万円の予算で、主に大滝地域の恒久電気柵の工事であった。

国の事業仕分けで鳥獣害対策は地方自治体が責任をもつべきとし、大幅に予算が削減された。

滋賀県の配分はわずか12%と最も低く、本町はさらに低い5%と要望額を無視した低い配分であった。

この状況では、計画とあり実施はできない状態である。財源確保の見通しと、今後の対応は、

町長

国の事業仕分けによつて鳥獣被害対策費は大幅に減額された。県にも独自の補助制度の創設も要望してきた。

農林水産省からの来年度予算の概算要求額は、113億円。

農業生産基盤等の整備費で、恒久電気柵などの整備を緊急に強化する目的で示されている。

国、県に対して引き続き補助制度の拡充を含め更なる要望活動を進めていきたい。

今年度の事業計画の実施については、協議会と共に慎重に進めていきたい。



川添 武史 議員

## 高齢者世帯の安否確認は 見守り体制を強化

—福祉保健課長—

川添議員

本町も少子高齢化が進んでいる。また独居老人宅や高齢者世帯も増加の一途である。

現在、緊急電話を設置しているが、人の動作で安否確認する機器もある。今後の導入予定は。

また、若者の雇用不安などで独身者も多い。公的な結婚相談所の設置を。

福祉保健課長

高齢者対策には、各地区の民生児童委員の協力のおかげで都会と違った横のつながりもあり、マスコミなどで報道されているような所在不明者はいない。また、緊急通報システムは48戸の利用者である。

高齢者の見守り体制は今後強化していかなければと考えている。結婚相談所については、町職員による少子高齢化対策チームで検討していきたい。

## 環境基本条例の周知は 公布から3カ月間で

—環境生活課長—

川添議員

環境基本条例は将来の子どもたちに、自然環境を残すためにも、重要課題である。

この条例は町民にも責務を求めるとしている。しかし町民の関心は少なく2会場で8人の参加者であった。

平成23年度より施行されるのであれば、広報だけではなく、周知を図ることが大切と思うが対策はあるのか。

環境生活課長

町民の皆様が環境保全に参加できる仕組み、また、町民、事業者、町の役割をはっきりさせ、本町の自然を守るルールづくりを目指している。条例施行日は公布の日から3カ月後と定め、こ

議会を傍聴して下さい

12月の一般質問は  
9日の予定です。

## 地域への貢献を重きに

工場長 北村 圭正  
ダイニツク91年の社史

の中で、当滋賀工場は京都の地から移転し早や32年の歳月が経過しました。

名実ともに多賀に根付いた生産拠点として、地域の皆様の暖かいご理解、ご支援を得て、歩ませて頂いております。

地域への社会貢献に重きをおき、天文学施設「天究館」や緑化推進施設の充実を可能な限り推進してまいりました。

お陰様で製造メーカー

(+)の自然環境に調和する工場としての評価を得ております。

ダイニツク製品は直接皆様の生活の場にはご確認していただけませんが、滋賀工場では、書籍の装丁、住宅内装に彩り添える化粧紙をはじめ、衣料、家電など多岐にわたる製品の製造を通じて、皆様の生活の中でお使い頂いております。

ぜひ、当工場をご覧頂きますよう、皆様のお越しをお待ちしております。



ダイニツク(株)滋賀工場

# たがとともに

## ダイニツク(株)滋賀工場

### 多賀町に住んで

新規開発グループ

安井 真志

ダイニツク(株)に就職し、多賀町で暮らし始めて4

年が過ぎました。社会人としての生活にも慣れ、多賀町の豊かな自然とどこかどこか懐かしさを感じ始めています。

幼少の頃、私は奈良県の川や田んぼに囲まれた自然豊かな町で暮らしていました。収穫時期が過ぎて乾いた田んぼは、格好の遊び場で、お正月には凧揚げができるほどの広さがありました。



60cm望遠鏡と子どもたち

しかし、高校、大学と進学するに連れて、次第に豊かな自然がなくなり、遊び場だった田んぼは住宅地となってしまいました。

現代っ子たちは、一人一台のゲーム機を持ち、外で遊ぶ機会が減っていますが、小さい頃に泥だらけになって遊ぶことはかけがえのない思い出です。

ポケットの中のゲーム機に代わって、多賀の自然はポケットに入った泥のぬくもりを思い出させてくれました。

多賀町の自然よ永遠に！

### 編集後記

今年の平均気温は平年を大きく上回りました。

9月になっても猛暑が続くなか、黄金の稲穂の刈り取りが行われ、今はほっと一息されていると思います。

私たちも議会広報誌のクリニツク研修を始め、地区の運動会、敬老会等で疲れを癒される間もなく編集・校正に取り組んできました。

一人でも多くの町民の方々に読んでいただける紙面づくりを心掛け、工夫しながら第127号の発行をしました。

皆様のご意見・ご感想を議会事務局へお寄せください。

大橋 富造 記